

熊本城の公開活用に関する取組方針

令和6年（2024年）3月

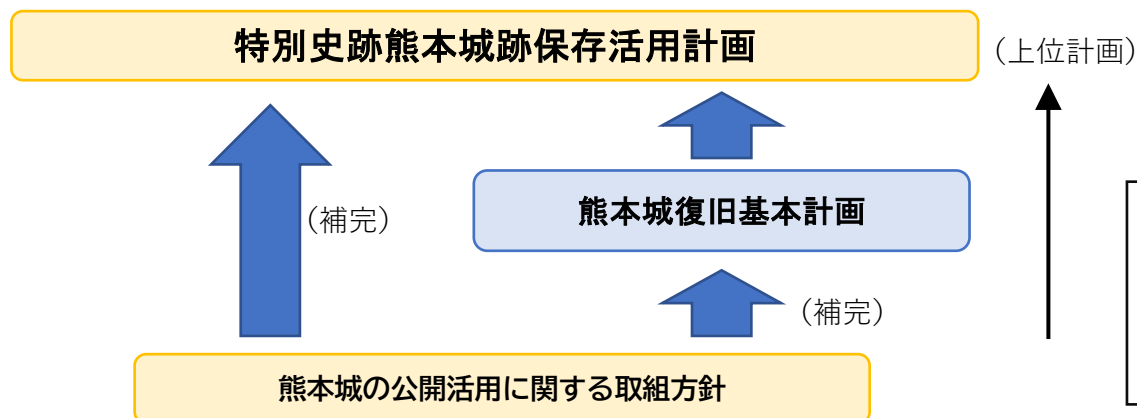
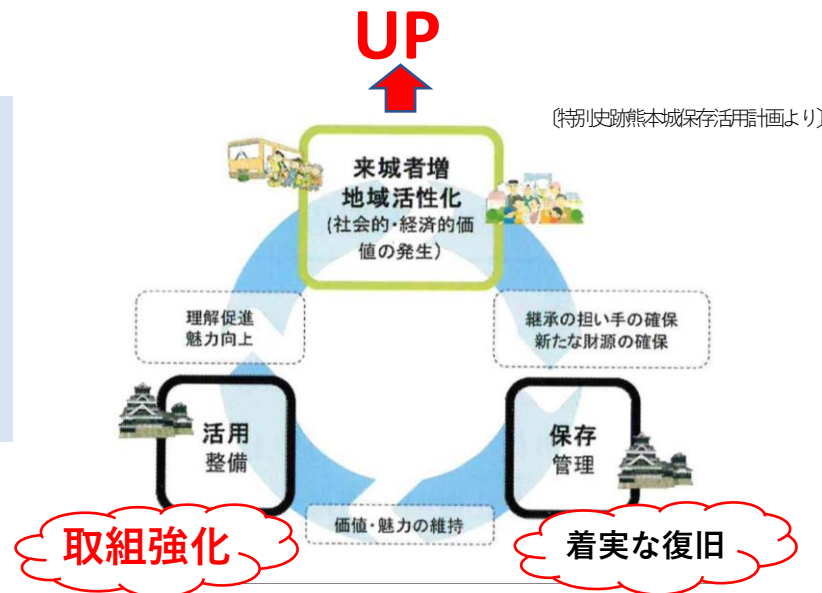
1 熊本城の公開活用に関する取組方針の目的と位置づけ

目的

特別史跡熊本城跡の適正な保存管理や本質的価値※の理解促進に取り組むとともに、復旧事業を着実に実施し、復旧過程においても文化観光資源としての活用の取組を強化することで、来城者の増加や地域の活性化につなげ、好循環を創り上げる。

位置づけ

「特別史跡熊本城跡保存活用計画」(平成30年3月策定)及び「熊本城復旧基本計画」(令和5年3月改定)を補完するもので、今後の復旧過程における熊本城の公開活用に関する取組の具体的な強化方針を示す。



※特別史跡熊本城跡の本質的価値とは
加藤清正による築城から西南戦争までの熊本城の形状をとどめるもので、石垣や重要文化財建造物、地下に埋蔵された遺構、遺物など。
詳細は『特別史跡熊本城跡保存活用計画』に記載している。

2 熊本城の公開活用を取り巻く状況

文化観光資源としての熊本城の状況

【市内における最大の文化観光資源】

・年間入園者数（R4年度）

熊本城 約100万人 水前寺成趣園 約25万人 熊本博物館 約9万人

・熊本市について非居住者（訪問経験あり）がイメージするキーワード

（森記念財団都市政策研究所「日本の都市特性評価2023」）

熊本城 31% くまモン 12% 阿蘇山 5%



本市の文化観光において熊本城は中核的な役割を担っている。

熊本地震による公開活用への影響

●マイナスの影響

- ・公開可能な範囲の減少
- ・入園者動線及び入園者キャパシティの制限
- ・イベント等の活用可能エリアの縮小

●プラスへの転換

- ・特別見学通路の設置によるバリアフリー動線の実現
- ・復旧事業の公開による「今しか見られない熊本城」

2 熊本城の公開活用を取り巻く状況

今後10年間の建造物復旧スケジュール

2027年度

①旧細川刑部邸



2028年度

②重要文化財櫓群 1

(田子櫓、七間櫓、十四間櫓、
四間櫓、源之進櫓)

③飯田丸五階櫓



2030年度

④平櫓

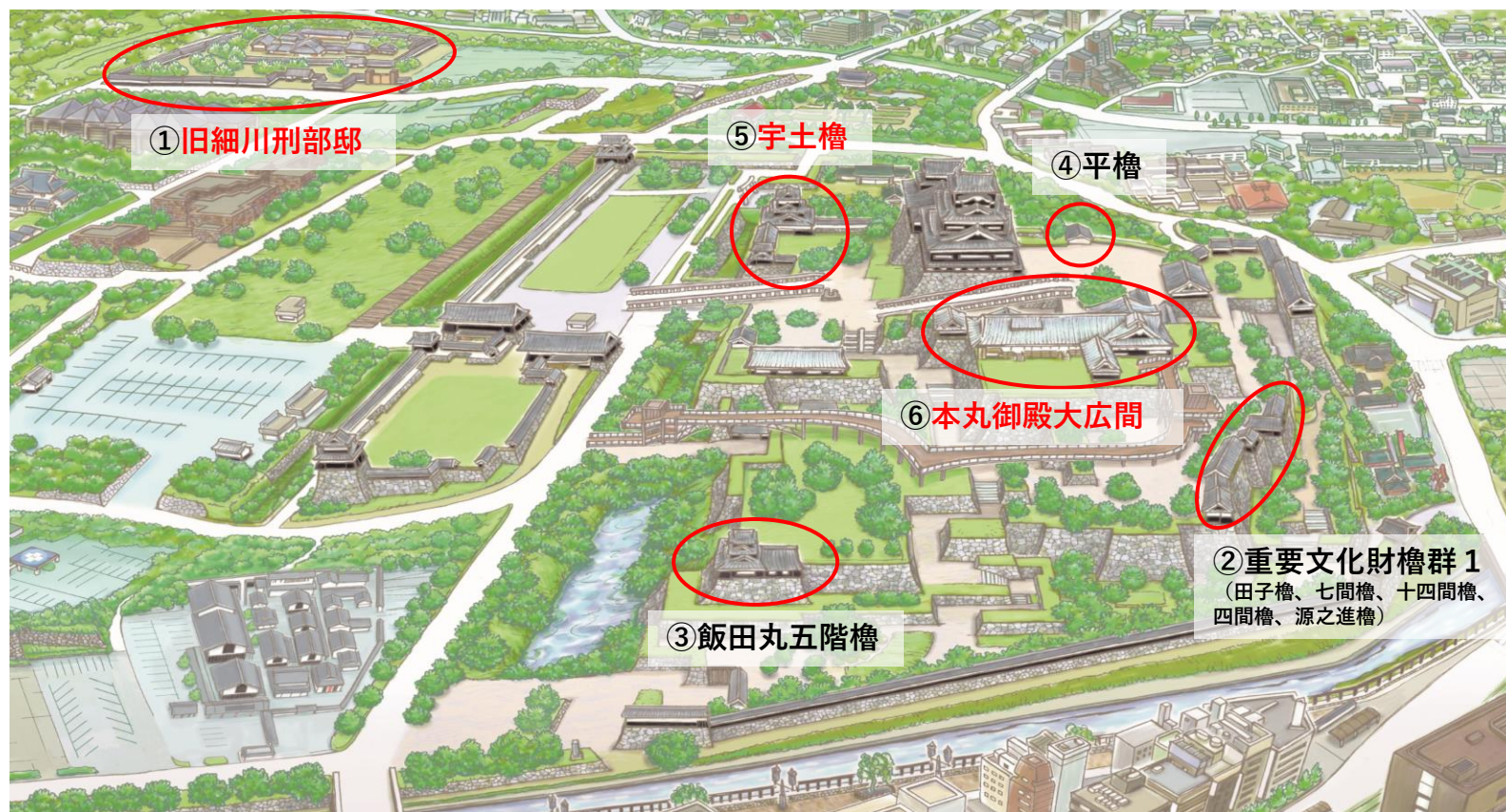


2032年度

⑤宇土櫓

⑥本丸御殿大広間

※赤字は復旧に伴い公開エリアの拡大が見込める建造物



3 熊本城における公開活用の課題

- ・ 櫓や石垣等の文化財が順次復旧していくものの、今後20年間にわたり公開エリアや観覧ルートは段階的にしか広がらない。
- ・ 熊本城の文化財としての本質的価値を広く知ってもらうため、インバウンド等の受入環境の整備や、より多くの人を惹きつける公開活用の取組が必要。
- ・ 入園者数は増加傾向ではあるが地震前の水準に届いておらず、収支としては赤字の状況。一方で、管理区域の拡大によって今後維持管理コストが増大していく可能性が高く、文化財の適切な保存及び公開のために、収支状況の改善が必要。
- ・ 地震被害による立入規制区域や復旧工事ヤードの発生により、イベント等に活用可能な場所の範囲が限定されている。
- ・ MICE等、地域への経済波及効果も意識した活用の取組が必要。

4 熊本城における公開活用の課題への対応方針 ①

対応方針 1 復旧過程の公開活用の取組強化

公開エリアが限定される復旧過程においても、熊本城の本質的価値や魅力を発信し、多くの来城者を得るとともに、文化財の適切な保存を継続するために、復旧過程の公開活用の強化を進める。

強化する取組

(1)熊本城の本質的価値や復旧に関する理解促進

- ⇒素屋根内部の見学会等による宇土櫓の復旧状況の公開
- ⇒石曳きや栗石への記名など、復旧工事に関連した体験行事の実施
- ⇒小中学生に向けた学習用Webコンテンツの作成

(2)熊本城公式ホームページやSNS等を活用した復旧状況の情報発信

- ⇒ホームページ上に「復旧状況」の情報を整備
- ⇒各SNSの特性に応じた運用方針を整理し、写真・動画を活用した情報発信を実施

(3)民間事業者と連携したメディア活動等の拡充

- ⇒連携協定等を通じた民間とのコラボレーションによる復旧状況の周知

(4)「復興城主」制度及び災害復旧支援金のブラッシュアップ

- ⇒寄附金制度の運用・情報発信についてより効果的なファンドレイジング等の手法を検討

4 熊本城における公開活用の課題への対応方針 ②

対応方針2 文化観光施設としての環境整備

インバウンド対応、デジタル対応など熊本城の価値や魅力を地域住民や国内外の観光客と共有する更なる取組みを進める。

強化する取組

(1) インバウンドを含めた来城者の理解促進のための環境整備

- ⇒多言語に対応した案内サインや解説版の充実
- ⇒多言語対応アプリの活用促進・周知
- ⇒城内ガイドの充実

(2) デジタル技術（DX・AI）の活用

- ⇒Webチケットの活用促進による入場待機時間の削減
- ⇒AIによる天守閣内の過密度の把握
- ⇒公式HP、SNSによる混雑予想や外国語によるお知らせの発信

(3) アクセスの向上

- ⇒復旧工事の状況に応じた北口ルートの開放（現在は日祝のみ開放）
- ⇒公開状況に応じたバリアフリー動線の整備
- ⇒SNSを活用したアクセス情報案内発信の強化
- ⇒復旧状況に応じた無料シャトルバスルート等の検討

4 熊本城における公開活用の課題への対応方針 ③

対応方針 3 MICE等への対応による熊本城の価値の活用・認知度向上 及び収益の安定化・地域経済の活性化

ユニークベニュー等のMICE事業への対応や民間のアイデアを活かした行事・催事の実施により、熊本城の価値を活かし、国内外での認知度をさらに向上させるとともに、収益の安定化と地域経済の活性化を進める。

強化する取組

(1) 高付加価値化によるMICE誘致等の促進

- ⇒ 二の丸広場・天守閣前広場のユニークベニューへの活用
- ⇒ 天守閣内・特別見学通路上での人数限定の飲食体験

(2) 民間のアイデアを活かした誘客行事の実施

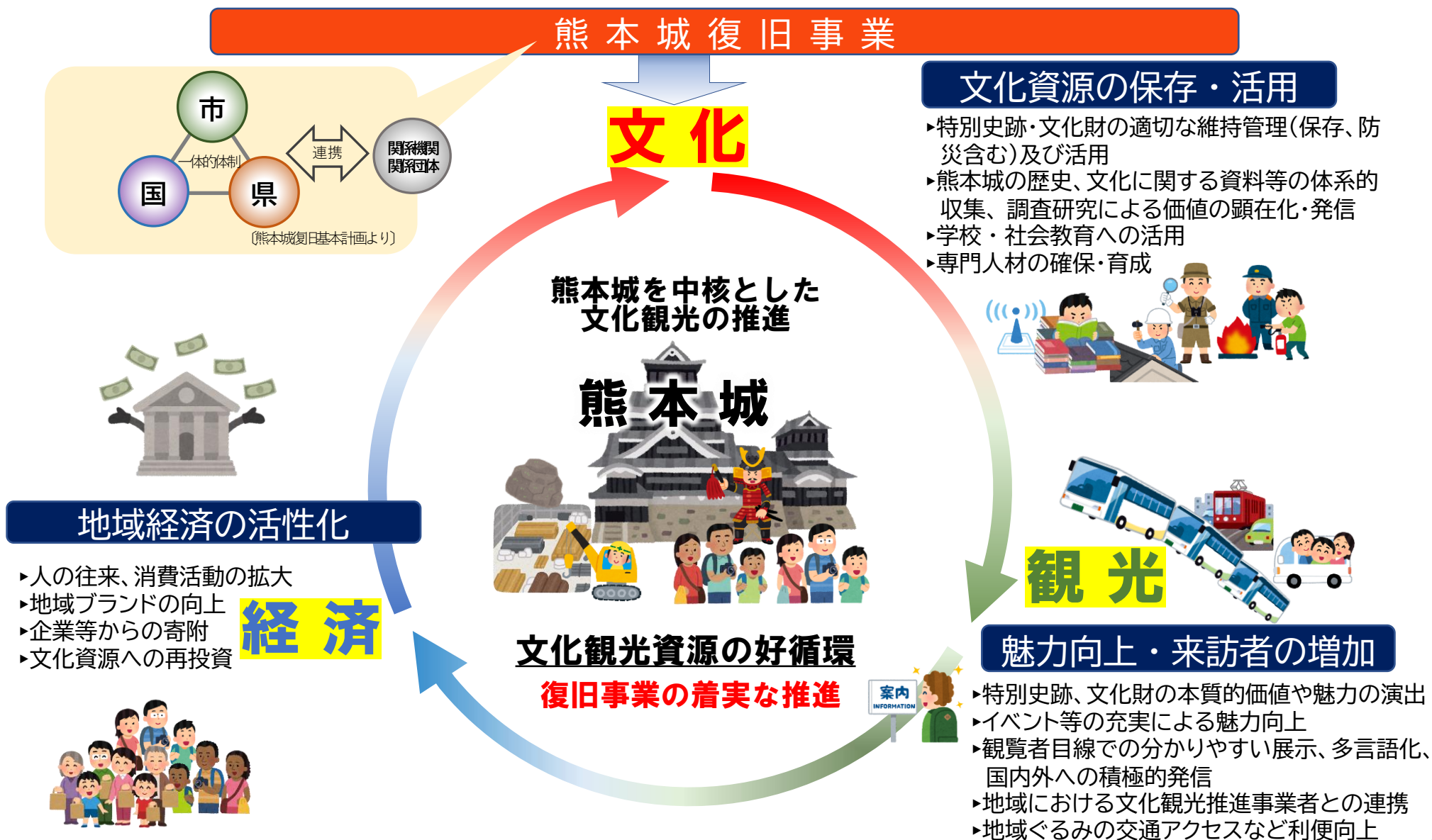
- ⇒ 二の丸広場・天守閣前広場の催事への活用
- ⇒ 早朝や夜間の限定公開によるナイトタイムエコノミーの創出
- ⇒ 体験型コンテンツの充実

(3) 城彩苑や中心市街地との連携促進

- ⇒ 城彩苑や花畑広場、シンボルプロムナード等中心市街地周辺との一体的な取組を推進

5 熊本市における熊本城を中核とした文化観光の推進

- ▶文化観光資源の拠点の復興（櫓、石垣の復旧、観覧ルートの確保等）
- ▶復旧に向けた国県市の連携体制
- ▶石垣等修復技術の進化、継承 ⇒ 全国の被災城郭への適用・伝統技能を含む復旧工事、調査に関わる専門人材の確保・育成



5 熊本市における熊本城を中核とした文化観光の推進

- 公開活用の推進にあたっては市内関係部局で連携を図るとともに、民間事業者・地域団体と連携・協働の上、官民一体となり熊本城の活用に取り組む。
- 国・県より、これまで同様、復旧事業への継続的な支援とあわせて、活用に関する施策についても全国的な事例等を踏まえた助言をいただく。
- 定期的に特別史跡熊本城跡保存活用委員会へ活用取組の状況を報告し、今後の取組みについて意見・提言をいただく。
- 本質的価値の保存を徹底しつつ適切な活用を行うために、「熊本城の管理に関する取扱要領」を改訂するとともに、「熊本城公園における催事開催に係る許可基準要綱」を新たに策定する。

